民報 藤島

2013年1月13日

第878号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉱一（宝徳）
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221
ＨＰは「藤島 加藤鉱一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい（月２００円程度）
12月 49人 36,300円
11月 35人 29,700円

2013年

日本共産党藤島支部
民報藤島編集部

農業者戸別所得補償が12月27日支払
隣接町より1ヶ月以上遅れる
藤島地域に6億7千万円

平成24年度の農業者戸別所得補償交付金の支払いが、鶴岡市では昨年度の12月25日からさらに遅れ、年末ぎりぎりの27日に農家に支払われました。

三川町や庄内町では1ヶ月以上前の11月21日に支払われており、藤島地域の農家から疑問の声が出されています。

「行革」で事務を委託―合併の弊害

市町村合併で農地面積が広大となり、農家ごとの水稲と転作の面積の確定、収穫量80％要件の飼料用米の数量把握など、作付け途上で変更や移動があった場合もあり、集計が手間取ったことが遅れの要因と見られます。

また、鶴岡市では「行革」の方針で24年度から戸別所得補償制度の事務を農協に委託したことから、「政策的な事務をなぜ農協へ」などの疑問や農協職員の繁忙さが指摘されています。

明らかに市町村合併の弊害が現れています。

農業者戸別所得補償交付金支払日

	支払日
鶴岡市	12月27日
三川町	11月21日
庄内町	11月21日

平成２４年度　水田活用所得補償交付金支払予定額【鶴岡市：藤島支所】

○戦略作物助成等

項目		面積（ａ）	単価(円/10a)	交付金交付予定額(円)	備考
主食用米作付面積		226,393	15,000	339,589,500	１０ａ控除後
大豆		52,312	35,000	183,092,000	
麦		62	35,000	217,000	
飼料作物		841	35,000	2,943,500	
新規需要米		14,476		115,808,000	
	米粉用米	154	80,000	1,232,000	
	飼料用米	13,423	80,000	107,384,000	
	ＷＣＳ用稲	899	80,000	7,192,000	
そば		1,235	20,000	2,470,000	
なたね			20,000	0	
加工用米		6,494	20,000	12,988,000	
備蓄米			0	0	
合計		301,813		657,108,000	

○産地資金による助成
　振興作物助成、団地・輪作・排水対策加算等　14,186,000円（変動有り）
○畑作物の所得補償交付金
　営農継続支払、数量払　0円
●藤島支所の交付金支払い予定額合計　671,294,000円（変動有り）

23年産米の精算

農業者戸別所得補償は、「米に対する助成」が、生産数量目標を守った農業者に「固定部分」10アール当たり1万5千円、標準的な販売価格を下回った場合にその差額を補てんする「変動部分」（今回はなし）。

「水田活用の所得補償交付金」は麦・大豆・飼料作物に同3万5千円、新規需要米として米粉用米・飼料用米・ＷＣＳ（ホールクロップサイレージ）用米に同8万円、そば、なたね、加工用米に同2万円となっています。

24年度の藤島地域の戸別所得補償制度の支払額は合計で約6億7100万円となっています。

それとは別に農協では12月26日、平成23年産米の精算金はえぬき1俵500円の支払をおこなっています。

政権交代でどうなる

政権交代で今後どうなるか。

昨年末の総選挙では、自民党は「多面的機能直接支払い」（農地として維持する支援策に振り替え拡充）、公明党は「固定部分維持、変動部分は農家拠出」制度を公約していました。

林農水相は就任直後の記者会見で、25年度は「それほど大きな変更にはならない」「現場を混乱させない」「抜本的な見直しの検討は26年度」と語っています。

共産党は、米価に過去3年の生産コストの平均を基準として販売価格との差額を補てんする「不足払い制度」と、水田のもつ国土・環境保全の役割を評価して当面10アール1～2万円の「所得補償」の実施です。

巳ノ虫（みのむし・東堀越）

大沼　浩

今年は巳年です。巳の十二支獣は蛇・へび・じゃです。庄内に蛇・へびの付く地名は見当たりませんが、蛇・じゃの方は大蛇の仕業に託された蛇崩・じゃくずれ、蛇喰・じゃばみなどを前に取り上げました。

巳ノ虫は東栄東堀越の小字です。寺川の右岸に沿い、上蛸井に対しています。青山崇『藤島地名風土記』には「巳ノ虫は蓑虫のことで」「地形が蓑虫の形すなわち蓑に似ていることにちなむと考えられます」とあります。

思い付きですが、巳はへびのことで、へびは虫でしたから、巳ノ虫はへびのことかもしれません。ただし実際の土地との関係ははっきりしません。

庄内町や鶴岡市朝日地区に小字毒蛇がありますがこれもはっきりしません。庄内町余目の常万ですが、安倍親任『筆濃餘理』には「道万沼・八つ沼抔云テ大沼有テ大蛇住リ。」という伝承があります。

六所畑で建物火災
1人暮らし高齢者の安全対策が必要

1月8日15時5分頃、上藤島字六所畑で建物火災が発生。木造2階建住宅延べ105㎡が全焼し、類焼3棟外壁等焼損し16時10分頃に鎮火しました。

火災は1人暮らしの鈴木清さん宅で、原因は室内に反射式ストーブを点けたまま外で作業をし、ストーブから燃え移ったものと見られ、隣家の今井竹美さんが火事に気付き、消火栓から初期消火、ひろやスタンドから駆け付けた疋田勝芋さんが、燃え盛る家に入ろうとする鈴木さんを力づくで引きづり出しました。

阿部健治郎・駅前町内会長は「1人暮らし高齢者は町内会で35軒もあり男女半々。対策を検討していた中での火災だ。特に男性の1人暮らしの安全対策に行政は本腰を入れてほしい」と語っています。

原発の危険手当の基準が判明、東電、しんぶん赤旗の取材に回答
―「しんぶん赤旗」を読んで

青山　崇

東電は廃炉に向けた作業の危険手当基準を、12月20日、しんぶん赤旗の取材に回答しました。報道機関に明らかしたのは初めてで、しんぶん赤旗21日付の記事です。

福島第1原発の危険手当

支払い基準が判明

ピンはね問題　東電、本紙に回答

問われる東電の社会的責任

危険手当は、現場の放射線線量、防護服などの装備によって1日2万円、経験があり班長などの資格をもつ作業員には10万円を支払っています。「線量の高い作業」は2割ほどの割増しもあります。

この手当をめぐって、多重下請け構造のもとで「ピンはね」があるといわれてきました。私も避難者の方から聞いていました。東電のアンケート調査でも、手当を受け取ったという作業員は51％しかいないとのことです。

危険手当の原資は5兆円に及ぶ除染・廃炉のための政府支援などで私たちの税金です。それなのに東電は、支払の実態を明らかにしようとせず、総額も分からないと無責任な態度です。これでは「ピンはね」を温存しているといわれてもしかたないでしょう。

手当もさることながら、危険をおかしてまでする作業員の心情を考え、また財源がないから消費税値上げというのに、5兆円も使っていると聞くと、さらに強く即時原発ノーを叫びたくなります。

しょう。

▼民報藤島第836号の「きびちょ」と同じなのだ。その人は、「その為には、株主の利益優先で外国脱出を図っている企業の考えを、以前の社員と家庭を大事にする日本型経営に戻す必要がある」と続くのだ。

▼赤旗を読んでないだろうと思われる人がそう感ずる社会なんです。大勝ちした自・公にそれを期待するのは無理でしょう。なぜなら首相になる前から財界に頭を下げている人が首相ですからネー。それにデフレ脱却と称して物価を上げるんです。財界は定期昇給も否定しているんですゾ。

▼私達の声が届く政治にしていかなくては少子化は止まらない。半年後にある参議院選挙で、今度こそ多すぎる党の声とマスコミにゴマかされる事なく、政治の中味を見極めなければ、と思うところです。（石川）

人口「自然減」に異議

去年1年間の日本の人口が21万1千人超も減ったんだソーナ。亡くなった人数から出生数を差し引いた数値でこれを自然減というそうですが、本当に自然減と考えていいのだろうかと思います。

▼ここん所の解説がどっかの新聞に出ないモンですかネー。自然減と捉えるのに私はニェット（露語で否定の意味）である。減る理由があり、それは大企業が実行し政治がそれを許しているからだ、と考えるのですが。

▼今までこんな事を書いて来た事のない人の年賀状に、「高齢化は止められないが少子化は止められる」とあったのだ。具体的に、「若者に仕事がなく家庭を持てない状況をなくす事です」とあります。正に「的を射た」言葉で

透明な粒あつまって紅柘榴（ざくろ）

工藤　博司

柘榴（ざくろ）の原産はペルシャからインド北西部で、日本へは中国から渡ってきたとみられている。

あの甘酸っぱい実を口に放り込むと、一気に少年に帰る思いがする。

それにしても不思議なのは、実の一粒ひと粒を手のひらに取り出してみると、たしかにうっすらとした紅色ではあるが、色づいていると言うよりもむしろ透明感がつよく、その透明な粒がびっしり集ると、濃いルビー色に溢れることである。

そこには、遠い日に見た夕映えの色があり、あるときには心を寄せた人の口紅の色だったりする。柘榴は、物語を紡ぎ出してくれる、数少ない果実のひとつである。

（画・加藤貞雄）